

令和5年度 我が校の学ぶ力向上策

**【市町 目標】**  
 ○新しい価値と可能性を追究する教育を実践し、多様性を尊重し自立できる子どもを育てる

**【学校 目標】**  
 ○生徒一人ひとりが主体的に学び、高め合い、思いやり、生き生きと活動する教育実践  
 ～「学校組織力の向上を目指したチームマネジメントの開発」～

**【現状と課題】**  
 ○視点1 全国学力・学習状況調査の結果から、基礎学力の定着を目指した授業改善を行ってきた。学習目標を意識させるために授業で使う指示カードを活用したり、新たな学びに結びつけるための振り返り活動も定着させてきた。また、ICTを積極的に活用し、情報活用能力の育成や個別最適な学びの推進に取り組んできたが、この取組で得られた知見や成果を今後どのように活かしていくかが課題である。  
 ○視点2 人権学習や道徳の授業により、生徒の自尊感情が高まり、自己の存在感を実感することができるようになってきた。今後も引き続き支持的風土を育てる学習集団づくりを目指して、自己存在感を高める・自己決定の場をつくる・共感的人間関係を育成するという生徒指導の3機能を生かした学習集団の基盤づくりに努める。  
 ○視点3 『切磋琢磨し躍動する学校』をめざして全教職員が共通理解と協力体制のもと、「つながり合い」の実践を通じて、保護者、地域と連携して、生徒が居心地のよい学校づくりを推進してきた。今後もさらにコミュニティ・スクールを活用して「つながり合い」の実践やミドルリーダーを中心とした校内研究を実践していく。

取組事項および評価指標

※評価：【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目：9月 2回目：2月】

【視点1】学びを実感できる授業づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○「書く力」「読み解く力」を育成する授業の充実 ○まとめ・振り返りの時間を確保し、生徒自身が学習を整理できるようにする。 ○学校ICTを活用した授業 ○授業形態の工夫と指示カードの明示 ○補充教室の充実(放課後・考査前・長期休暇)	・学力向上を目指した指導体制・指導方法の改善(教師による自己評価)		
	・「先生は学力向上を目指してわかりやすい授業づくりに努めている」		
	・「わからないところを尋ねたり、補充したりする場が用意されている。」		

【視点2】学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○支持的風土の醸成と学習規律等の学習環境を整える。 ○人権学習を通じて他者への思いやりや自尊感情を高め育む。 ○道徳の公開授業を行い、家庭と連携して道徳性を育む。	・「互いに支え合おうとする学級・学年集団になるように努力している」(生徒保護者評価)		
	・「生命を尊重し、いじめを許さないためにしっかりと考えることができた」(生徒評価)		
	・「道徳の時間をはじめ学校生活の様々な場で道徳心の向上に努めている」(保護者評価)		

【視点3】子どものために一丸となって取り組む学校づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○コミュニティ・スクールを活用した取り組みの推進 ○特別支援教育を意識したユニバーサルデザインの推進 ○PDCAサイクルにより継続的に取り組みを改善する。 ○生徒・保護者・教師・地域を繋ぐ、「つながり合い」の実践を通じて生徒の生きる力を育んでいく。 ○ミドルリーダーを中心としたチームマネジメントの開発	・教職員の指導力及び組織的な教育力の向上(教師自己評価)		
	・「コミュニティ・スクール事業を受けて、地域と共にある学校づくりを推進している。」(保護者評価)		
	・「この学校は地域に支えられている学校であると感じている。」(生徒評価)		

- 4月の職員会議において、学校のグランドデザインを元に、教育のユニバーサルデザインを推進し、誰もが居心地の良い学校にするために、取り組み事項の共通理解を図る。
- 研究主任を中心に学校組織力の向上を目指したチームマネジメントの開発を進めるために、生きる力向上プロジェクトによる、ミドルリーダーの育成を年間を通じて実施する。
- 教科の枠を超えての授業実践を行うために、授業公開を積極的に実施し、開かれた学校を進めながら、地域や保護者の力もかりて、カリキュラムマネジメントを推進する。
- 学ぶ力向上策においては、年度末の学校評価で、その結果や課題、改善策について再考し、他校の取組も参考にしながら、学校の向上策がよりよいものとなるよう検討する。

今年度の取組の成果と課題